

いま、10代留学。



どんな10代も
過ごしたら、

なりたい大人に
なれますか？

2023年派遣 プログラム案内

第70期生 **留学期間** 2023年～2024年



必ず**募集要項**
をご確認ください

AFS learning programs are:

AFSの学習プログラムは…

あなたが「アクティブな地球市民」になるためのプログラムです。

AFS日本協会は70年にわたり、10代の若者に異文化と接する機会を提供し続けてきました。

今や海外で学ぶ方法は数多くありますが、AFSが力を注いで大事にしてきたことのひとつに「学ぶ環境を整えてきたこと」があります。派遣・受入プログラムを両輪で行うことで生まれる多様な交流、やる気を引き出してくれる仲間や先輩たちとのつながり、自分自身や文化について深く考える機会、そして体験を学びに変えるための振り返り。そこにはいつも伴走者として、様々な年代の様々な背景をもつAFSボランティアがいました。

ボランティアは、自身も異文化理解について学び、文化間に「橋を架ける」ことを楽しみながら、あなたにとって「セーフティネット」のような存在でいてくれます。どうぞ、たくさん悩んで、たくさん失敗してください。そうして体当たりの経験がもたらす変化の一つひとつが、あなたを「アクティブな地球市民」にしてくれるはずです。



1. Transformative

変化を生み出す

文化の違う環境においては、新しい発見や初めてのことにチャレンジする機会が日常生活、教室の中、公共の場のあらゆる場面に存在します。AFSはプログラムを通して参加生にそのような学びの機会を提供するとともに、周りにいる人たちのもの見方や態度をも変化させていきます。



2. Goal-based

目標に基づいたカリキュラム

AFSプログラムでは、参加生が体験を通して目指すべき教育目標を設定しています。AFS体験がもたらす影響について行われた様々な研究に応じて、1980年代前半に各国のAFS関係者や教育関係者が集まり教育的な目標と基準を策定しました。それが今日の教育目標の原型となっています。ボランティアは、その目標を達成するために個々の参加生に寄り添いながらサポートします。



3. Immersive and structured

没頭体験と構造化された学び

文化の違う環境に飛び込み、その世界にどっぷりと浸かることは、生活体験プログラムの大きな特徴です。しかし、ただ体験するだけでは、十分な教育効果は望めません。AFSプログラムでは、異文化体験を学びの機会に深めていけるよう、サポート体制やオリエンテーション、定期的な振り返りなど、カリキュラムとして包括的な構造を整えています。



4. Non-formal

教室の外で

学びは、学校や公的機関の中だけにあるものではありません。AFSは校舎のない学校に例えられることもあるように、プログラム中に起こる様々な体験、アクティビティ、ディスカッションなどが、教室の外、つまり日常的で身近な環境のもとで行われています。

アクティブな地球市民

AFSはこんな人が「アクティブな地球市民」と考えています。

- 自分自身がグローバル・コミュニティの一員であるという意識を持っている
- 世界が直面している課題は相互に依存していて、私たちの選択や行動が、地域や世界の人々に影響を与える可能性があることを知っている
- 異なる文化の人々とオープンで適切かつ効果的な交流を行い、世界をより公正で、平和的で、包括的で、安全で、持続可能なものにするために、他の人々と協力して積極的に役割を果たすことができる

9つの資質

AFSプログラムは、慣れない文化にどっぷり浸かる、時としてストレスも伴う体験です。AFSでは、長年の経験や研究結果から、参加者は以下の「9つの資質」を持ち合わせている必要があると考えています。

1. 柔軟性がある
2. 自信をもち、進んでイニシアチブをとることができる
3. 異なる教育環境で学ぶ意欲と能力がある
4. 曖昧な状況を受け入れ、他人に助けを求めると他者からの手助けを受け入れることができる
5. 異なる文化背景を持つ人に興味を持っている
6. 他者に共感できる
7. 偏見にとらわれない広い心を持っている
8. 他者と向きあかつ肯定的な関係を築き、自分の考えを他者と共有できる
9. 広い視点で自分自身を見ることができる

5. Experiential and practical

経験的学習

AFSは実体験を伴う学びに勝るものはないと考えています。AFSのスタッフやボランティアは参加生を新しい世界に飛び込ませ、彼らの中で自ら成長していけるようサポートします。参加生は新しい生活に「意味を持たせる」方法を教わり、そこで得た気づきをもとにして新しいアプローチを試し、調節するというサイクルを繰り返します。

6. Life-long

生涯学習

AFS体験は、生涯にわたり影響を及ぼし続ける「学びの旅」でもあります。プログラムの期間が終了しても、そこで得た体験を種として学びは続いていきます。また、多くの帰国生は、ボランティア、ホストファミリー、他のプログラムに参加するなど新たな機会を得て、さらに学びを深めていきます。



BEFORE



DURING



AFTER

このイラストは参加生が世界をどうとらえ、考えているか、そしてAFS体験が進むにつれてどのように展開するかを表しています。

参加生は生まれ育った文化に影響を受けた価値観をもって旅を始めますが (BEFORE)、新しい文化で生活する中で異なる視点や価値観を取り入れ、変化していきます (DURING)。それは帰国後も変化し続けます (AFTER)。

Intercultural Education Worldwide

AFSのグローバル・コミュニティ

AFSは異文化学習の機会を提供する世界的な教育団体です。



歴史



AFSの名は、第一次、第二次世界大戦中に、傷病兵の救護にあたったボランティア組織American Field Service（アメリカ野戦奉仕団）に由来しています。1914年、第一次世界大戦が勃発した時、パリにいたアメリカ青年たちが、自分たちも何かしたいと戦場から後方の病院へ傷病兵を輸送する活動を始めたのが発端でした。彼らは軍隊のかたわらで輸送車を運転し、担架で傷病兵を運び、120万人以上の傷病兵の救援に尽力しました。ナチス強制収容所解放にも約70名のAFSのボランティアが協力しています。

2回の大戦を経験したボランティアたちは、その経験と活動を通して、他国の人たちとともに働くことから、どれだけ多くのことを学んだか、お互いの違いを認めあい、尊重しあうことがいかに大切であるかに気づきました。そして、悲惨な戦争の結果である傷病兵の救助活動よりも、「戦争を起こさない」という前向きな活動に取り組む決意をし、若者の留学制度を始めようという結論にいたりしました。そして、1947年に世界11か国から52人の若者がアメリカに派遣されました。ここに世界各国の高校生がアメリカで1年間の留学体験をする機会を提供するプログラムが生まれたのです。

参加者数

交換留学制度が始まった1947年以降、プログラムの参加者数は累計で世界50万人を超えています。日本においては1954年に8人の高校生が渡米したことから活動が始まり、2021年までに年間派遣プログラムに参加した高校生は1万6,000人超にのぼります。

AFSのネットワーク

AFSは世界56か国のパートナー組織がネットワークで結ばれているグローバル・コミュニティで、世界5万人以上のボランティアが活動を支援しています。

米国ニューヨーク市にあるAFS国際本部は、全AFS生の安全管理をはじめ、パートナー間の協力や連携を円滑にするためのさまざまな調整を行うと同時に、全パートナーが守るべき国際ガイドラインを設けています。また、新しくAFSに参加した国の育成や既存の組織を維持するための活動も行っています。各国のAFS組織は、AFS国際本部の定める基準に則り、各国職員・ボランティアの連携によりプログラムを実施しています。

AFS日本協会は事務局と全国に約70の支部と4つの学生部を置いており、2004年に「国際交流功労者文部科学省大臣表彰」を受け、2011年に公益財団法人の認定を受けました。



各国のAFS組織

AFS国際本部の定める基準に則り、各国職員・ボランティアの連携によりプログラムを実施しています。

アイスランド、アイルランド、アメリカ、アルゼンチン（ウルグアイを含む）、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、オーストリア、オランダ、ガーナ、カナダ、ギリシャ、グアテマラ、ケニア、コスタリカ、コロンビア、スイス、スペイン、スロバキア、セルビア、タイ、チェコ、中国、チュニジア、チリ、デンマーク、ドイツ、ドミニカ共和国、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パナマ、パラグアイ、ハンガリー、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベトナム、ペルー、ベルギー（オランダ語圏）、ベルギー（フランス語圏）、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ボリビア、ポルトガル、香港、ホンジュラス、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モンゴル、ラトビア、ロシア

* 2021年1月時点。上記の他に各AFS加盟国が独自に交流を行う国が約56か国あります。

AFS & UNESCO

AFSは、2015年にUNESCOのオフィシャルパートナー（consultative status）として認められました。



SDGs

AFSは、国連が2030年に向けて採択した「持続可能な開発目標（SDGs）・世界を変えるための17の目標」のうち、目標4と目標16をサポートしています。



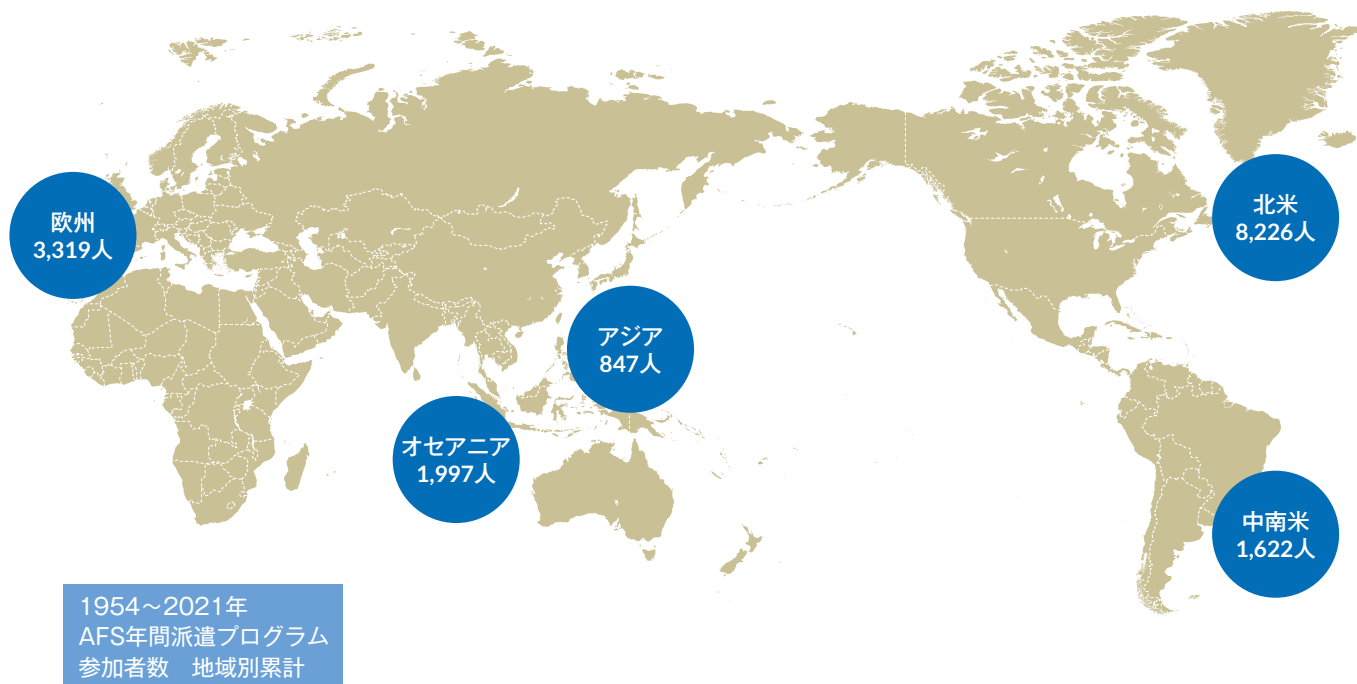
アクラ宣言

2017年10月、ガーナのアクラで開催されたAFS国際総会（AFSネットワーク会議）で、AFSの立場と役割を国際社会に示す「アクラ宣言」が発表され、同総会に出席した世界120のAFS代表者が署名を行いました。この宣言で、AFSは、「公正で平和な世界を実現させる唯一の道は、国際社会が多様性を尊重し、寛容な姿勢を大切にし、互いに協力して喫緊の課題に取り組むことである」と、力強く訴えています。



Where do you want to go?

どの国で異文化体験する？



AFS年間派遣プログラムは、ボランティアに支えられながら、ホームステイ&現地の高等学校に通い、異文化理解について学ぶプログラムです。日本からはこれまでに世界約50か国に1万6,000人以上を派遣してきました。現在も、世界中から留学先を選ぶことができます。

応募時には第1希望から順に、複数の国の希望を出すことができますので、制約事項にふれない限り、できるだけ多くの国を検討してみてください。AFSは長年の経験から、そして過去の参加者の声から、どの国・地域で過ごしても同じように意義のある体験ができると考えています。文化の違う環境に飛び込み、その経験を学びに変えていくプロセスは共通しているからです。

応募者の皆さんが世界中のさまざまな国・地域に関心を寄せてくださることを期待しています。



留学経験者の声、
約400件紹介しています！



年間留学体験談

今年から応募できるようになった国



ギリシャ



ポーランド

AFS日本協会の年間派遣は今年で第70期を迎えます。

第70期にして初めてギリシャ、ポーランドの2か国が派遣国として募集されました。

国別募集一覧

募集の有無や定員は応募時までに変更する可能性がありますので、エントリー時にご確認ください。

前年度と今年度の欠席日数の合計が目安として30日以内でなくてはなりません。学業成績は中程度以上であることがAFSの国際基準で定められており、スイスは上位4分の1以内、アメリカは上位4分の3以内である必要があります。そのほか、各国における制約事項は右記QRコードよりアクセスし国名をクリックしてください。



応募できる国

本プログラムは、新型コロナウイルス感染症による不測の事態が懸念される中での募集・実施となります。状況によりプログラムが事前に中止・延期となる可能性があることを予めご了承ください。

組別	留学先	定員	出発	帰国	年齢制限		ペット	喫煙	参加費
冬組 2023年 1月～3月 出発予定	★アルゼンチン	8	2-3月	1月	2005/04/02	2007/04/01	▲	●	130万
	イタリア	5	1月	11月	2005/04/28	2007/04/01	▲	●	150万
	コスタリカ	10	2月	1月	2006/02/25	2007/04/01			130万
	スイス	3	3月	1月	2005/04/02	2007/03/04			150万
	タイ	3	1月	12月	2005/04/02	2007/04/01	▲	●	125万
	チリ	8	2月	1月	2005/08/25	2007/04/01	▲	●	130万
	デンマーク	2	1-2月	12月	2005/04/02	2007/04/01	▲		150万
	ドイツ	5	2-3月	1月	2005/04/02	2007/04/01			150万
	パナマ	3	3月	1月	2005/04/04	2007/04/01			130万
	パラグアイ	3	2月	1月	2005/04/02	2007/04/01			130万
	ブラジル	3	2月	1月	2005/04/02	2007/04/01			130万
	マレーシア	5	1月	12月	2006/01/21	2007/04/01			125万
	夏組 2023年 6月～10月 出発予定	アイスランド	3	8月	6月	2005/04/02	2007/12/19	▲	
アメリカ		55	8-9月	6月	2005/05/10	2008/03/10			180万
イタリア		30	9月	7月	2005/12/09	2008/04/01	▲	●	150万
インド		8	7月	5月	2006/01/15	2008/01/15			125万
インドネシア		8	7月	6月	2005/07/29	2007/07/29			125万
エクアドル		2	8月	6月	2005/05/26	2008/02/26		●	130万
オーストリア		5	9月	7月	2006/03/02	2008/04/01	▲	●	150万
カナダ(フランス語圏)		2	8月	7月	2006/03/26	2008/04/01	▲		150万
ギリシャ		3	9月	7月	2005/09/03	2007/09/03			150万
スイス		7	8月	7月	2005/04/02	2007/08/19			150万
スペイン		3	9月	6月	2006/05/09	2008/04/01		●	150万
タイ		3	7月	5月	2005/08/29	2008/04/01	▲	●	125万
チェコ		8	8月	7月	2005/04/02	2008/04/01	▲		150万
中国		5	8月	6月	2006/02/26	2008/02/26			125万
デンマーク		6	8-9月	7月	2005/08/05	2008/02/05	▲		150万
ドイツ		12	9-10月	7月	2005/04/02	2008/03/09			150万
ノルウェー		3	8-9月	6月	2005/04/02	2007/08/19	▲		150万
ハンガリー		10	8月	7月	2005/04/02	2008/02/26	▲	●	150万
フィリピン		8	7月	5月	2005/07/15	2008/04/01			125万
フィンランド		16	8-9月	6月	2005/04/02	2007/12/12	▲		150万
ブラジル		3	8月	6月	2005/04/02	2008/04/01			130万
フランス		18	9月	7月	2005/12/02	2008/04/01			150万
ベルギー(オランダ語圏)		5	8月	7月	2005/04/02	2007/12/26			150万
ベルギー(フランス語圏)		3	8月	7月	2005/04/02	2007/08/26			150万
ポーランド		3	8月	6月	2006/02/26	2008/02/26	▲		150万
ボリビア		3	8月	6月	2005/04/02	2008/02/19			130万
ポルトガル		3	9月	6月	2005/09/09	2008/04/01			150万
香港		2	8月	6月	2007/02/26	2008/04/01	▲		125万
ホンジュラス		2	8月	7月	2006/02/26	2007/08/26			130万
メキシコ		5	8月	7月	2005/11/26	2008/04/01			130万
ラトビア	2	8月	6月	2005/08/19	2008/02/19			150万	
ロシア	2	8月	6月	2006/02/26	2008/04/01	▲		125万	

★印の国はA日程でのみ応募できます

▲印の国はペットと同居できない方は応募できません

●印の国は喫煙者と同居できない方は応募できません

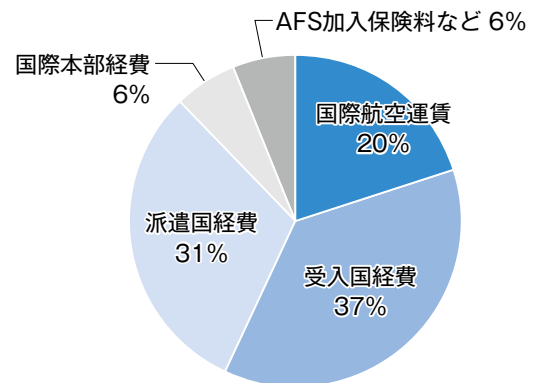
プログラム参加費

内容		金額	支払い時期
選考手数料		25,000円	応募時
プログラム参加費	アジア・ロシア	1,250,000円	<ul style="list-style-type: none"> ●一次金（300,000円）：本申込み時 ●二次金（残金）：受入国審査通過時 目安として冬組は10～12月ごろ、夏組は1月～5月ごろ。 納入期日は別途お知らせします。
	ヨーロッパ・カナダ	1,500,000円	
	アメリカ	1,800,000円	
	中南米	1,300,000円	

①プログラム参加費に含まれるもの

- 日本から受入国までの往復航空運賃（現地国内線を含む）
- AFSが加入する団体保険
- 出発前・滞在中・帰国後オリエンテーション参加費
- ホストスクール通学交通費
- 出発前・滞在中のサポート経費、連絡諸経費
- AFSが企画する参加必須の行事やカウンセリングに関わる経費
- プログラム運営・管理費
- AFS国際本部経費

役務提供が日本国内で行われる業務（派遣国経費）には消費税が含まれます。



プログラム参加費の内訳

②プログラム参加費に含まれないもの

受入国や配属先、為替の変動などにより異なります

ホームステイ滞在費用（ホストファミリーはすべてボランティアであり、留学生を家族の一員として無償で受け入れ、日常の食事・生活費を負担します）	
ホストスクール授業料（交換留学生として特別待遇で受け入れられますが例外もあります）	
空港税、国際観光旅客税、燃油サーチャージ及び出国手続き諸費用（当協会指定の代理店による）	30,000円～80,000円程度
査証申請料・取得関連費用（指定された大使館までの交通費、指定病院での健康診断作成費用）など※1	50,000円～180,000円程度
予防接種など、受入国からの連絡により必要となる諸費用※2	3,000円～100,000円程度
オリエンテーション会場と自宅間の移動・前泊の費用	
当協会が指定する集合・解散場所（成田又は羽田空港を予定）と自宅間の移動・前泊の費用	
海外旅行傷害保険、加入費用（任意加入）※3	130,000円～250,000円程度
留学中の歯科治療費、眼鏡（コンタクトレンズ）代金、直近の既往症及び現症の傷害・疾病継続治療費、健康診断料、視力検査料、予防接種代金、予防薬代金、美容外科費用など保険でカバーされない費用	
留学中の小遣い（受入国により持参指定金額が異なります）	800～2,500米ドル程度／年
受入国AFS主催の任意参加旅行費用（受入国により異なります）	
受入国AFSが出発前に指定する学校費用（教科書代、検定試験受験料、制服代、スクールチェンジに伴う学校費用などが必要となる場合があります）	
新型コロナウイルス感染症の影響により、出入国時および搭乗後に発生する諸費用（航空機搭乗前のPCR検査費用および陰性証明書発行手数料、隔離生活に伴う施設・食事・移動費等の費用など）	200～2,000米ドル程度
One AFS寄附	15,000円～

※1 出国手続き及び査証申請は、当協会指定の旅行代理店が手配します。申請方法・申請料などは受入国や為替の変動によって異なります。また、燃油サーチャージは出発時期や留学先により大きく異なります。空港税は日本と受入国の利用空港でかかります。国籍や家族構成によっては、追加費用が発生する場合があります。

※2 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、留学生の受け入れにあたり、世界各国でホストファミリーやホストスクールがコロナワクチンの接種を求めており、必須の条件となっています。*2022年2月時点

※3 任意保険にはなるべくご加入いただくことをお勧めいたします。査証取得のため任意保険加入が必須の国もあります（2019年参考情報：イタリア・スペイン・ハンガリー・フランス・ポルトガル・ラトビア）。

奨学金一覧

より多くの高校生に留学の機会を届けるために、AFSは多くの個人、法人、団体からの寄付・助成によるさまざまな給付型の奨学金を用意しています。原則、A日程、B日程から募集します。希望される方は、応募と同時に申請してください。

奨学金名	支給額	対象地域	応募資格	人数
AFS 平和の鳩プロジェクト	プログラム参加費全額+準備金30万円	全国	経済的に本奨学金がなければ留学が困難な者	5名
三菱商事 高校生海外留学奨学金	プログラム参加費全額 (※)	全国	学業・人物とも優秀で、国際相互理解、異文化体験に意欲があり、経済的に本奨学金がなければ留学が困難な者	最大 60名
JBS海外留学奨学金	プログラム参加費全額 (※)	全国	多様な文化との対話ができるグローバルなコミュニケーション能力を培い、将来デジタルの分野で社会に貢献したいと考えている方。 IT系国家資格またはマイクロソフト社の資格等を取得していること。 内定国に指定あり。一次合格後に申請のこと。	3名
AFSボランティア奨学金	50万円	全国	保護者の給与等の年間収入金額の合計額が800万円以下である者	5名
(公財) 森村豊明会 高校留学奨学金	50万円	全国	保護者の給与等の年間収入金額の合計額が1,000万円以下である者	5名
オデッセイIT奨学金	50万円	全国	(株)オデッセイコミュニケーションズが実施する特定資格の取得、又は、IT分野における国家資格の取得によってITスキルを証明できる書類を提出できる者であり、保護者の給与等の年間収入金額の合計額が400万円以下である者	1名
AFSどさんこ奨学金	50万円	北海道	道内に在住または道内の学校在学中で保護者の給与等の年間収入金額の合計額が800万円以下である者	2名
AFS山形ふるさと奨学金	50万円	山形県	県内の学校在学中で経済的必要度の高い者 (保護者の給与等の年間収入金額の合計額が800万円以下を原則とする)	2名
(公財) 新潟市国際交流協会 高校生留学奨学金	70万円	新潟市	市内に在住又は市内の学校在学中で、外国において中学校以上の教育(日本人学校を含む)を1年以上受けたことがない者	1名
田口福寿会AFS留学生奨学金	50万円	岐阜県	県内に在住かつ県内の学校在学中	10名 以内
東海東京財団留学奨学金	100万円	愛知県	県内に在住又は県内の学校在学中で、保護者の給与等の年間収入金額の合計額が1,000万円以下である者	最大 5名

※派遣先国に応じたAFSプログラム参加費の全額を支給。参加費以外の経費(選考手数料、パスポート、査証取得費、国内交通費など)はすべて個人負担となります。

その他、奨学金制度のある自治体や企業

埼玉県、横浜市、(公財)長岡米百俵財団、小松市、広島県、(公財)福岡市教育振興会、佐賀県、福井県、イトーヨーカドースカラシップ、小川奨学財団、ソニーグループ国際教育基金

私たちが持っている知識や考え方というのは、一度日本をでてみないことにはただの「日本人の視点」でしかありません。日本にいる私たちが抱く常識とは、海外からみれば非常識と捉えられるということもよくあります。つまりグローバル社会に適応していくことが求められるこの時代、「日本人の視点」だけで物事を見るには不十分であるということです。

実際経験してからしか生まれえない考え方や知識、感情というものがあるのです。留学を通して日本では見ることのできない世界を肌で感じ、今後の私の成長だけではなく日本や世界に貢献するための活動を図れるまたとない機会になりました。

(2019年 奨学生レポートより)

Start your “learning journey” with AFS

プログラムの流れ

応募 選考	エントリー	2022年3月15日より随時
	ELTiS受験	2022年3月25日より随時 試験日を選択して受験
	応募	A日程 2022年4月20日～5月19日 B日程 2022年6月27日～7月19日 (募集継続国のみ) C日程 2022年9月12日～10月3日 (募集継続国のみ) いずれの日程においても再受験が可能です
	応募結果受領・受入国決定	応募締切日の約3週間後に応募結果を受領し、 受入国が決定
	奨学金結果受領 (申請者のみ)	A日程 2022年7月中旬 B日程 2022年9月中旬 C日程 2022年11月下旬 一部奨学金は時期が異なります
	本申込み・一次合格	A日程 ~2022年7月下旬 B日程 ~2022年9月下旬 C日程 ~2022年12月上旬 本申込み手続きをもって一次合格となります
留学 準備	オリエンテーション・家庭訪問・ オンライン学習・英文書類作成	
	受入国審査	2022年7月より随時
	配属決定・出発	
留学	プログラム参加	2023年1月より随時
振り返り	オリエンテーション・ボランティア活動・ 体験発表	2024年11月より随時



エントリーについて

エントリーは、応募に進むための必須プロセスですが、費用は発生しません。

必ず事前に在学校の先生にご相談ください（学校によっては留学や応募について内規が設けられている場合があります）。まずは募集要項を読み、以下の手順でエントリーをしましょう。

- アカウント作成
- 説明動画を視聴
- 理解確認クイズに回答
- 応募できる国セルフチェック



募集要項

ELTiSについて

英語力判定テストです。アメリカを留学希望国として選択するには689点以上（約8割以上）の取得が必須条件です。AFSでは3回までの受験が可能で、受験料は1回5,500円です。自宅等からオンラインで受験ができます。アメリカ留学希望にかかわらず、皆さんの受験が可能ですので、ぜひ自身のレベルチェックを試してみてください。申込み方法はエントリー画面よりご確認ください。



ELTiS概要

応募について

応募期間になったら、エントリー画面にログインをして下記の情報を入力し、応募ができます。

- 基本情報登録
- 留学希望国
- 自己アピール作文（日本語）
- 奨学金申請
- 選考手数料支払い（25,000円）

応募結果は、応募締切日の約3週間後に通知予定です。その際に受入国が決定します。

本申込みについて

本格的な留学準備を進めるために、以下をもって本申込みをしていただきます。

- 参加規程等へ署名（オンライン署名）
- 在学校の推薦書提出
- 参加費一次金支払い（300,000円）

本申込み後の通知により一次合格となります。次のステップで作成する英文書類をもって、受入国による審査が開始されます。英文書類には過去3年分の成績証明書や健康診断書などが含まれます。

オンライン学習について

全世界AFS共通のオンライン異文化学習プログラム「Student Learning Journey 2.0」に取り組んでいただきます。自分のペースで進める動画学習と、同じ時期にプログラムに参加する各国のAFS留学生と意見交換するライブセッションという構成になっています。全編英語で実施されます。

配属決定・出発について

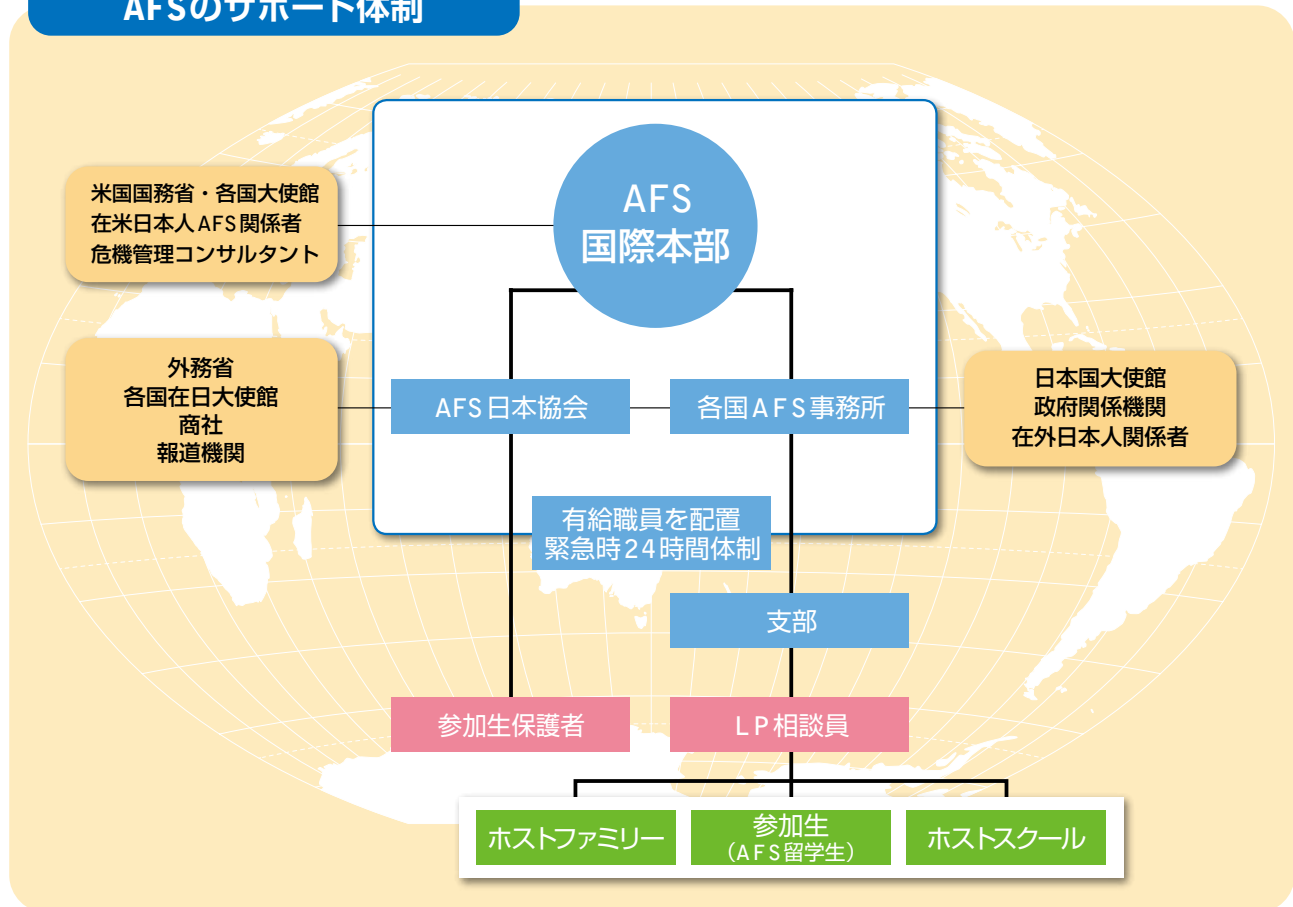
配属先（ホストファミリー・ホストスクール）は受入国が決定し、応募者が希望を出したり選ぶことはできません。受入国審査に通過すると、受入国では配属先探しに入ります。AFS生と配属先の双方が有意義な体験を送ることができるように、受入国は慎重に組み合わせを考えていきます。配属は大変時間のかかる作業ですので、決定時期には個人差があり、お知らせが出発直前になる場合がありますのでご了承ください。近年はひとり親家庭や子供のいない家庭等、ホストファミリーの形は様々です。ホストスクールは、現地到着後の決定となる場合があります。

出発の際は決められた日時・便を利用します。配属作業の遅れや査証・政情不安等の問題で出発間際に出発日の変更やプログラムの中止又は延期をお知らせする場合があります。出発時期による留学期間の延長はありません。出発日がはじめてから複数回に分かれる場合もあります。

How does AFS support students?

AFSのサポート体制

AFSのサポート体制



災害や事故、病気など緊急事態の対応については、職員とボランティアが連携して適切な処置がとれるよう、各国共通のガイドラインを定めて24時間体制で対応にあたります。保護者の皆様におかれましても、AFS日本協会と常に連絡がとれる体制を整えてください。

危機管理の体制

自然災害や国情不安などの非常事態は、世界中どこでも起こりえます。派遣側と受入側とを異なる組織で運営するプログラムが多い中、AFSはニューヨークにある国際本部を中心に世界中にネットワークをもち、共通のガイドラインのもとで、参加生の生命にかかわるような緊急時に備えた危機管理体制を整えながらプログラムを運営していることが強みです。非常事態が発生した際、受入国AFS事務所は現地の政府機関や報道機関など多方面から情報を集めて各国に発信します。この間、AFS留学生に対しては外出制限やホストファミリーと共に行動することなどの具体的指示が出されます。さらに国際本部の危機管理チームは、危機管理コンサルタントにアドバイスを仰ぎながら、国際機関・政府機関から情報を集め、非常時には速やかな判断・決定ができるよう状況を監視し、参加生の安全を最優先としたプログラム運営ができるよう努めています。

〔 保 険 〕

全世界のAFS留学生を対象とする二次的旅行医療保険に加入し、受入国により1件につき50～150万米ドルを上限とする医療費を補償するほか、日本では留学中の万一の事態に備えるためにAFS日本協会が保険契約者となる海外旅行保険にも加入します（この上で、別途、任意保険にもご加入いただくことを強く勧めています）。

〔 ボランティアとサポート 〕

AFSの活動を支えるのは、世界5万人以上のボランティアです。異文化体験を通して視野を広げたAFS帰国生やその保護者、留学生を自らの家庭に受け入れ心を通わせたホストファミリー、その他多くの賛同者がプログラムを支えています。

各国のボランティアは、それぞれの知識と経験を生かしながら、彼らがよりよい異文化体験ができるよう無償でサポートしています。

● 家庭訪問

選考を通過した参加生のお宅には、日本のAFSボランティアが訪問します。参加生が日本の家族とどのように過ごし、どのような環境で生活してきたかということをも本人とご家族にじっくりお伺いし、受入国のAFSと共有し、ホストファミリーとの組み合わせを行います。

● オリエンテーション

出発前、留学中、帰国後にそれぞれオリエンテーションを行います。出発前は、同じ時期に出発する日本全国の参加生とともに参加し、プログラムの体制や健康管理指導、渡航準備のほか、異文化体験にあたっての心構えをつくっていきます。留学中は各国からその国に留学しているAFS留学生と一緒に参加します。帰国後は自らの体験を振り返り、仲間と体験を共有しながら、再適応や今後の目標について考えていきます。オリエンテーションは対面またはオンラインで行いますが、異文化学習においては欠かすことのできないプログラムですので、必ず全員に参加していただきます。

● ホストファミリーへの家庭訪問

受入国のAFSボランティアがホストファミリー候補者のお宅を訪問して、AFSの趣旨を説明し、自らも異文化体験をしようとする積極的な意思があることを確認します。

● 一人ひとりへの担当者

受入国滞在中は、留学生一人ひとりにボランティアの担当者（LP相談員。LPはリエゾン・パーソンの略）を配して、留学生やホストファミリーからの相談に応じたり、話し合いの場を設定したり、必要に応じたさまざまな支援を行っています。生活習慣や文化を熟知している現地のボランティアだからこそ、現地の社会に適応するための確かなアドバイスができます。



AFSアルゼンチンのロサリオ支部

● 保護者会・保護者オリエンテーション

出発前には保護者を対象としたオリエンテーションも実施します。また、留学中には保護者会を開催し、時期に応じた適応状況のご説明や情報共有などを行います。参加生の体験を通して、保護者の皆さまにも異文化体験していただきます。

● 体験発表・進学相談

留学体験を発表することは、周りの人々に留学先の生活や文化を知ってもらえるだけでなく、自身が体験を振り返り、意味付けをしていく絶好の機会となります。各地で企画されますので、ぜひ参加してください。また、留学経験を活かしてどのような進路があるのかを考える進学座談会なども企画されています。

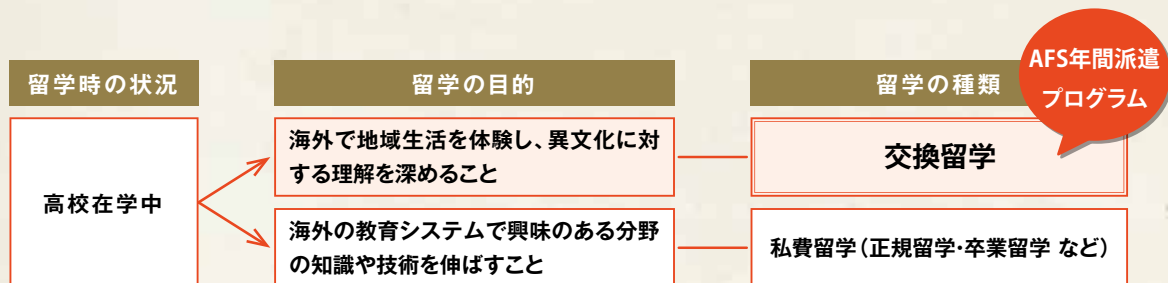
このほか、海外から日本に来ているAFS留学生との交流会も地域支部ボランティアや大学生ボランティアによって企画されています。



大学生ボランティアによる進学座談会

基本情報 — 高校生の海外留学

高校生の留学は「交換留学」と「私費留学」の大きく2種類に分けられます。



■ 交換留学とは

交換留学は、10代の青少年を対象とした、1学年間にわたる異文化生活体験プログラムです。ボランティアの受入家庭（ホストファミリー）に滞在しながら地域の公立又は私立高校（ホストスクール）に交換留学生として通学し、異なる文化的背景を持つ人間同士が理解を深めることを目的としています。

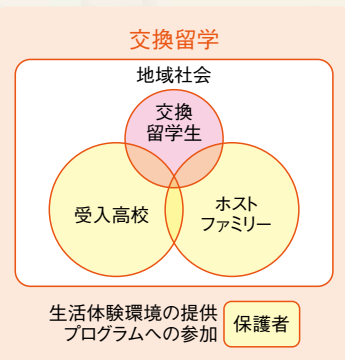
AFS年間派遣プログラムは、世界で最も歴史のある高校生交換留学制度です。

〈参考：私費留学との違い〉

交換留学		私費留学 (正規留学・卒業留学など)
海外で地域生活を体験し、異文化に対する理解を深めること	目的	海外の教育システムで、興味のある分野の知識や技術を伸ばすこと。単位の取得
国の希望を出すことはできるが、配属地域や学校・学年、家庭は選べない	留学先の国・地域	選べる
現地の一般家庭にホームステイ（無償）	滞在形態	寮滞在又は現地の一般家庭にホームステイ（有償のケースが多い）
選べない 留学期間は1学年間（約10か月）で出発日・帰国日は交流団体が指定した日程	期間	選べる
プログラム参加費は125～180万円（AFS年間派遣70期の場合。参加費に含まれない諸費用は8ページ参照。）	費用	留学機関により異なるが、寮滞在で450万円以上、ホームステイで300万円以上、国際航空運賃が別途必要になることが多い。

■ 交換留学は「みんなが参加者」

異なる文化的背景を持つ人間同士が理解を深めることを目的とした交換留学では、留学生本人だけでなくホストファミリーやホストスクール、地域コミュニティの人々、サポートボランティアも、プログラムの参加者だと考えられています。異文化と接する機会を得るのは、受入れる側の人々も同じだからです。



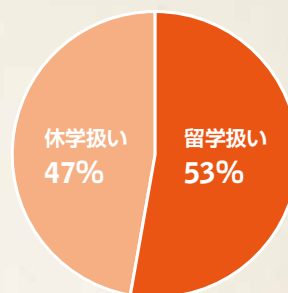
■日本の高校における留学の取扱い

高校生の留学では、事前に帰国後の復学について考えておく必要があります。復学には、在籍する高校に対して「休学扱い」と「留学扱い」の2種類の方法があります。どちらを選択するかは、生徒と先生方で相談して決めることになります。

- 留学扱い…外国の高校での履修を認定してもらい、遅れずに進級（卒業）する
- 休学扱い…帰国後、出発時の学年（1年下のクラス）に入る

文部科学省は、「学校教育法施行規則第93条第2項」で次のように定めています。『校長は、留学することを許可された生徒について、外国の高等学校における履修を高等学校における履修とみなし、36単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる』。この規則の趣旨は、留学体験そのものを36単位分修得したものととして認定するものです。この趣旨に則り、在学期が留学全体として成果があったかどうかという

観点で留学の取扱いについて審査を行い、最終的には学校長の裁量により単位認定が決定されます。学校によって規程や方針が設けられている場合もありますので、応募を検討するにあたっては必ず在籍校の先生とよく相談してください。



63期～65期生（2016～2018年に出発）へのアンケートより

■在学期に持ち帰る書類は各自で【重要】

AFSプログラムは単位修得を目的としたものではありませんので、ホストスクールに関する基本情報の提供は行いますが、上記単位認定の条件を満たす配属先やサポートを保証することはできません。ホストスクールの証明書が帰国後の単位認定資料として必要な場合は、ホストスクールに通学を開始したら直接相談し、またホストスクールが定める証明書発行の要件を満たすよう努力してください。なお、ホストスクールによっては希望する書類を発行できない場合があります（出席証明書は発行できるが成績証明書は発行できない等）。また、帰国後に証明書発行を希望しても取得はほぼ不可能です。

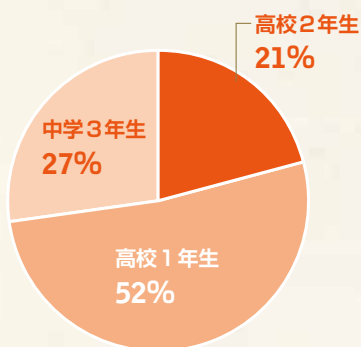
受入国との教育制度の違いや語学習得レベルによっては日本の中学校相当の学年に配属される場合があります。また、ファミリーチェンジの結果スクールチェンジとなったり、受入国の社会状況や教育環境の違いにより、ストライキなどで休校になったりする場合もあります（例：フランス、ボリビア、チリ、コスタリカ）。

- × 留学先の高校（ホストスクール）が単位をくれる。
- 日本の在学期が「留学体験そのもの」を単位として認定する。

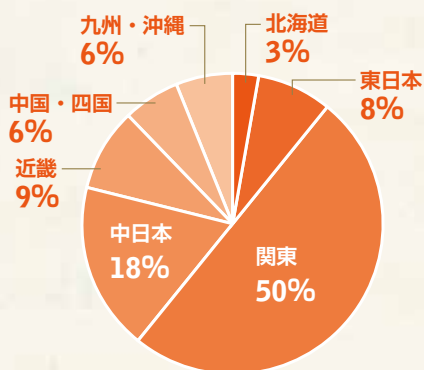
AFSプログラム参加者プロフィール （66期生：2019年に出発）

■応募時の学年

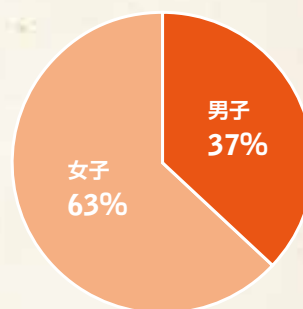
（出発は半年～1年半後）



■出身地域



■男女の割合



Q. 留学にAFSを選ばれた理由は何ですか

- ・アシストしてくれるボランティアの方々がいると安心できると思ったから
- ・言語ではなく文化、人との理解と協力を理念にしている団体だから
- ・歴史があり信頼できる団体だから
- ・たくさんの選択肢の中から派遣国を選ぶことが出来たから
- ・AFSでホストファミリーをやったから
- ・AFSで留学した知人が勧めてくれたから

（66期生：プログラム終了後、Eメールによるアンケートより）

AFS プログラムの評価とインパクト

■体験の充実度・満足度



プログラム終了後、Eメールによるアンケート。65期生（2018年に出発）／回答率 参加生51%、保護者48%

■体験者の声（留学レポートより）

センパイたちの体験、
読んでみよう

“自分自身を知ることができた”

私にとってこの留学の意義とは「自分自身を知ること」だったと思います。日本を発ってから周りに流されてばかりで、留学に来た意味や、自分がわからなくなることがありました。また、自己嫌悪に陥って、本当の自分の気持ちを伝えられないことや、その一瞬の楽しい瞬間を自分から退けてしまい後悔もしました。そんな中で「自分」という壁に何度もぶち当たって、少しずつ自分のありたい姿や目標が見えてきました。楽しいこと、辛いこと、すべてを含めての「留学」ですから、学んだことをここで終わらせるのではなく、自分自身のこれからや、そして周りにも、いろんな形でつなげていきたいと思っています。

（イタリア派遣生）



“人と繋がり主体性を持って行動する”



自分の留学生生活を今振り返ってみると、決して楽しいことばかりではなかった。しかし、これだけは言い切ることが出来る。「自分はオランダで濃密な時間を過ごし確実に成長することが出来た」と。

留学する前や留学してからまだ日が浅かった頃は、誰かが助けてくれ変化をもたらしてくれる事を期待していたり、自分でしか解決出来ないと思ひ込み、自分の周りにいる人々を信頼し相談したり対話したりする事が自分には欠けていた。

自分で何とかしようと孤独に努力し続け、気づけばただただ無為に時間だけが過ぎる。そんな光のない闇の中でも、ホストファミリーは、いつも変わらずに接してくれた。話を聞いて、理解しようとしてくれた。本当の家族のように受け入れてくれた。これがどれだけ僕の救いになったか本当に言葉では言い表せられない。留学中、人々との対話を重ねて、僕の留学生活は変わった。日本とは違った文化の中で人と繋がり主体性を持って行動することの大切さに気づいた。たくさん学んだことの中でも、自分の中で成長することが出来たと思えることである。

（オランダ派遣生）

“ジェンダー問題に関心”

私は留学中に様々な新しいことに挑戦し、新しい人と会い、沢山の“初めて”に触れることで自分が何に興味があるのか、何が好きなのかを考えさせられました。例えば、英語の授業で扱った、LGBTQについて興味があることに気がしました。日本にいた時は自分に関係のないことだと思ってきましたが、留学を通して実際身近にバイセクシュアルの友達を持ち、彼らがいかに生きづらいかを知りました。自分に何かできる事はないかと思っているところで、大学でもそのようなことを学んだり研究したりしたいと思っています。

（アメリカ派遣生）



■スピーチ・エッセイコンテスト等の受賞情報（2021～2022年）

重野 美沙さん ドイツ派遣

第59回福井県高等学校英作文コンテストC部門 優秀賞
文科省指定グローバル型地域協働推進校探究成果発表委員会主催
「Glocal High School Meetings」英語部門 銅賞

志比 あかねさん メキシコ派遣

第2回高校生スペイン語スピーチコンテスト 第二部門 参加賞
内容：立ち上がることの大切さ

古越 壮真さん コスタリカ派遣

第17回エクステンション
高校生スペイン語スピーチコンテストERUDITOS部門 最優秀賞
内容：コスタリカでの愛について

ブルックス 真凜さん メキシコ派遣

清泉女子大学 第2回高校生スペイン語スピーチコンテスト 2位
内容：「その普通は普通じゃないかもしれない」

松村 秋奈さん チリ派遣

トフルゼミナール 交換留学帰国生小論文コンテスト 銅賞
内容：チリの人々の愛情溢れる生活と、幸せの関係性



松村 秋奈さん

■帰国後の活動

AFSでの体験をきっかけに「アクティブな地球市民」として行動している人たちがたくさんいます。AFSに限らず、さまざまな場所でボランティアとして活躍している人もたくさんいます。

私は現在、男性育休プロジェクトや政策提言、働き方改革コンサルタント養成講座など「働き方改革」において最前線の取り組みを行う会社で、唯一の学生インターンとして働いています。

このテーマに関心を持ったのは、高校時代にフィンランドに留学した際、欧州と日本の働き方の差に衝撃を受けたことが大きな理由のひとつです。「男性が育児の6割をしてちょうどいい。より体力があるのだから当たり前」と語っていたホストファザーの背中が忘れられません。

そして、自分の仕事に誇りを持って働ける環境を切り開いてこられたのは、失敗を恐れず踏み出す力を留学で培えたからだと思います。

当時わたしの高校では過去に留学した生徒は一人もおらず「君には無理だよ」とまわりに囁かれていました。しかし勇気をもって決断し、留学先ではたくさんの困難にあいながらも、そのたびに自分を見つめ直し、考え、人に頼り、沢山の人の支えてもらう中で乗り越えてくることができました。

大学に入りワーク・ライフバランスをテーマに活動し続けたときも、インターンを募集していない今の会社に連絡をとり、勇気と熱意をもって行動し続けたことが今に繋がっています。

常識を疑い、視点を変え、失敗や反対を恐れず挑戦し続ける「やってみなはれ」の精神で、未来の日本の“はたらく”について考え続けていきたいと思っています。

#Thisisafseffect より抜粋

#ThisisAFSeffect

10代での異文化体験がもたらした変化や、AFS体験を支えるボランティアの声を、ぜひ読んでみてください。



AFS友の会

各界で活躍しているAFS関係者をお招きして講演会などを開催しています。オンラインから視聴できる講演会も増えています。

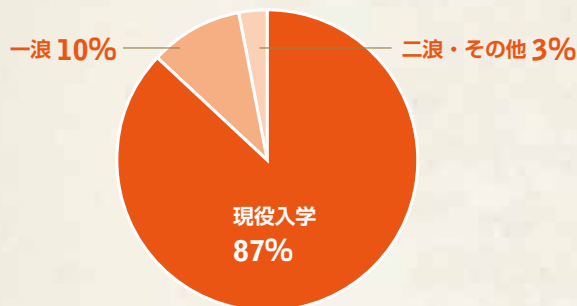


友の会

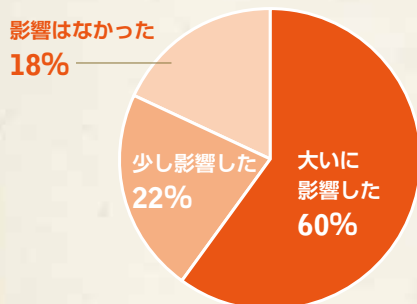
■高校卒業後の進路について

63期～65期生（2016年～2018年に出発）を対象に行った進路についてのアンケート結果をご紹介します。（Eメールによるアンケート／有効回答数266人）

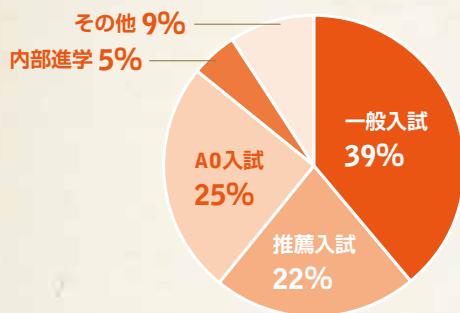
進学までの期間は？



留学したことが進路決定に影響した？



入試方法は？



主な進学先一覧（五十音順）

＜国内＞

- 青山学院大学
- 宇都宮大学
- 大阪大学
- お茶の水女子大学
- 学習院女子大学
- 学習院大学
- 金沢大学
- 金沢美術工芸大学
- 関西医科大学
- 関西外国語大学
- 関西大学
- 関西学院大学
- 北九州市立大学
- 北里大学
- 岐阜大学
- 京都産業大学
- 金城学院大学
- 群馬大学
- 慶應義塾大学
- 神戸市外国語大学
- 公立はこだて未来大学
- 国際医療福祉大学
- 国際教養大学
- 国際基督教大学
- 駒澤大学
- 札幌学院大学
- 産業能率大学
- 滋賀県堅田看護専門学校
- 実践女子大学
- 島根大学
- 順天堂大学
- 上智大学
- 信州大学
- 専修大学
- 創価大学
- 大東文化大学
- 千葉大学
- 中央大学
- 筑波大学
- 津田塾大学
- 東京外国語大学

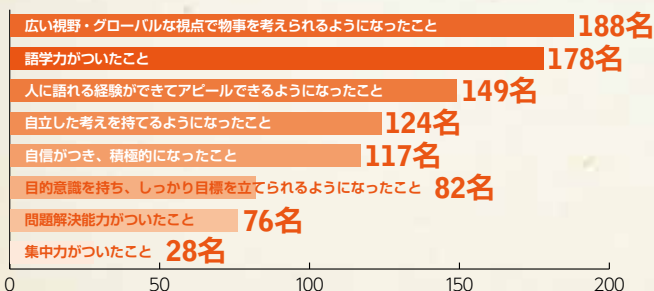
■ 東京海洋大学

- 東京学芸大学
- 東京大学
- 同志社大学
- 東北大学
- 東洋大学
- 獨協大学
- 名古屋大学
- 奈良女子大学
- 南山大学
- 広島市立看護専門学校
- 福岡大学
- 法政大学
- 北海道大学
- 武蔵野大学
- 明治大学
- 横浜市立大学
- 立教大学
- 立命館アジア太平洋大学
- 立命館大学
- 琉球大学
- 早稲田大学

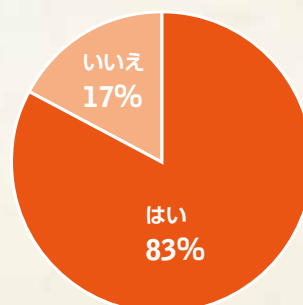
＜海外＞

- ウィスコンシン大学(アメリカ)
- オレンジ・コースト大学(アメリカ)
- シドニー大学(オーストラリア)
- ジョージ・メイソン大学(アメリカ)
- トロント大学(カナダ)
- プレヴェン医科大学(ブルガリア)
- プレジデント大学(インドネシア)
- マウント・ホリヨーク大学(アメリカ)
- マサリク大学(チェコ)
- ミシガン州立大学(アメリカ)
- ルイーゼ・ボッコニーニ商業大学(イタリア)
- ロサリオ大学(アルゼンチン)
- ワシントン大学(アメリカ)
- 文藻外語大学(台湾)
- 銘傳大学(台湾)

留学したことで大学入試に役立ったと思うこと



将来、海外で仕事をしたいと思う？



■帰国後のキャリアについて

2018年から2019年にかけて、AFSネットワークでは高校留学後の人生やキャリアについてのインパクト調査を実施しました。内容の一部をご紹介します。(Eメールによるアンケート/回答者：日本を含む80か国・10,500人のAFS帰国生。性別は女性68%、男性29%、その他3%。年代は40才以上33%、40才未満 67%)

AFSプログラムに参加したことで…

●アクティブな「グローバル市民」になれた



87%の帰国生より。さらに88%は異なるバックグラウンドをもった人々と帰国後も長く繋がり続け、83%は世界が直面している課題を解決したいと思うようになったと回答しました。

●グローバルな環境で働く準備ができた



90%の帰国生が、異なる文化や背景の人々と、よりよいコミュニケーションや協働ができるようになったと回答。そのうち84%は多様な職場環境に適応する力が伸びたと答えています。

●ボランティア活動に参加するようになった



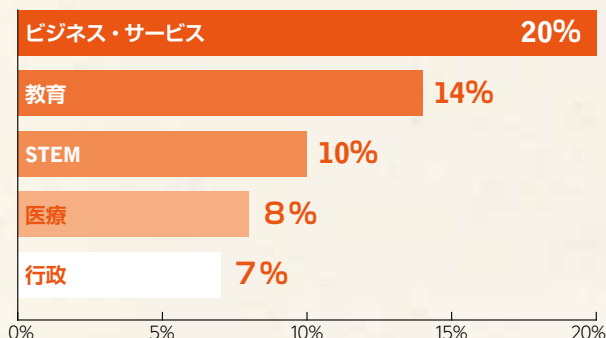
60%の帰国生が、AFSまたは他の組織のボランティア活動に参加したと回答しました。最も一般的なのは、若者支援、文化、スポーツ、教育団体での活動、教会での活動などです。

●早いスピードでキャリアアップできた

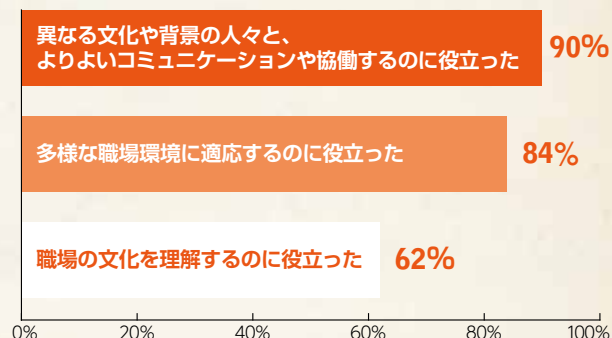


この回答の67%が40才未満でしたが、帰国生の79%がすでに各分野の中間レベル以上の職位に就いており、26%がマネージャーや管理職クラス、20%が役員クラスに到達しています。

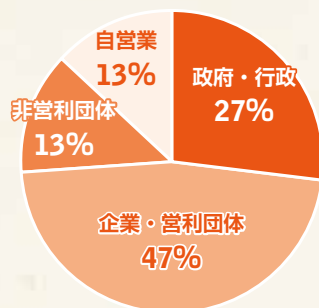
就業分野のトップ5



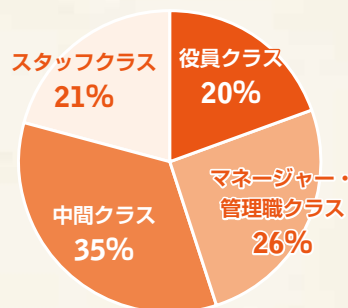
多様な職場環境に適応する力



所属組織の形態



職場におけるポジション



詳しいレポートはAFS国際本部のホームページでもご覧いただけます。

<https://afs.org/alumnireport/>
「Creating Global Citizens : The AFS Effect」



ご支援、ご協力をいただいております

AFSとともに国際相互理解事業を促進し、多様な人々と共に、よりよい世界を築ける人材の育成をご支援くださっている皆様に、この場を借りて、厚くお礼申し上げます。

AFSをご支援くださっている法人・団体 (2020年1月～2021年12月) ※2021年1月20日現在

敬称略・50音順

三菱商事株式会社	公益財団法人JKA	ソニーグループ国際教育基金
公益財団法人田口福寿会	一般財団法人東海東京財団	日本ビジネスシステムズ株式会社
福岡城西ロータリークラブ	米国伊藤財団	株式会社明治
公益財団法人森村豊明会	Lucena Philanthropy Trust	
株式会社オデッセイコミュニケーションズ	株式会社クリーンテック	公益財団法人東京コミュニティー財団
公益財団法人長岡米百俵財団	公益財団法人新潟市国際交流協会	ホクセイプロダクツ株式会社
有限会社ランゲージハウス	株式会社三菱UFJ銀行	
株式会社明石スクールユニフォームカンパニー	ケイモンドコンサルティング株式会社	小糸製作所労働組合
一般財団法人静岡県勤労者信用基金協会	静岡県労働金庫	しずおか焼津信用金庫
株式会社ジンテック	株式会社泉州	株式会社坪井塗工
東京海上日動火災保険株式会社	Benevity	ホクセイ金属株式会社
株式会社ほくていホールディングス	株式会社大和電機製作所	
医療法人あいほら医院	有限会社赤塚工業	アクス株式会社
アンドリンガカトラポール	イオン北海道株式会社 イオン旭川駅前店	イオンリテール株式会社イオンもりの里店
イサン株式会社	医療法人石井会石井病院	イズミ工業株式会社
いりなか眼科クリニック	株式会社MC三河設計	株式会社大垣共立銀行
有限会社お菓子屋レニエ	一般財団法人小川奨学財団	株式会社小野組
株式会社学校良品	株式会社加藤建築事務所	株式会社カナイ
合資会社川貞商店	北おおさか信用金庫 千里中央支店	株式会社木村硝子店
医療法人こぐま会くまざわ耳鼻咽喉科	公文式三原宮浦教室	国際ソロプチミスト新潟ー西
サッポロホールディングス株式会社	三輝工業株式会社	医療法人社団三思会ひかりクリニック
JA全農いわて	JA全農とちぎ	敷島堂ファイル
島工業サービス株式会社	有限会社シャポー	株式会社鈴廣蒲鉾本店
生協法人大阪高齢者生活協同組合	Salesforce	株式会社セコマ
合同会社知の泉	チャンピオンスポーツ	中部電力パワーグリッド株式会社
有限会社てっちゃん	東京都港区（団体応援寄付金）	有限会社任田リース
徳法寺	豊島区教育部指導課	豊島株式会社
医療法人康和会中沢クリニック	奈良クラブ	有限会社成田工務店
西脇医院	日本ハウズイング株式会社 大阪支店	日本耐酸塩工業株式会社
株式会社のいり	医療法人浜本内科	株式会社バリュブックス
日比谷クリニック	有限会社平田水道工業	ファンタジアアまほうの手
有限会社ふじや	株式会社フレッセイ	株式会社北総交通
ホテル日航成田	政木写真館	有限会社光永建設
むかわハートクリニック	眼鏡工房凜	医療法人社団 森下皮膚科医院
医療法人山下医院	合資会社山本屋	
有限会社ユア商事	湯河原珠算専修会	
料亭鳥茂	株式会社Y's	
株式会社ワコールホールディングス	AFS友の会	
		明や伊藤一雄
		株式会社いかりスーパーマーケット
		いながわクリニック
		大西泌尿器科クリニック
		河合石灰工業株式会社
		カフェタナカ本店
		共栄不動産
		有限会社後藤飼料
		株式会社サン・モトーレン
		島工業株式会社
		一般財団法人住友理工あったか基金
		全矢崎労働組合島田支部
		株式会社坪井塗工
		医療法人社団ときざわレディスクリニック
		NAO税理士法人
		西山製麺株式会社
		ニューサンピア株式会社
		株式会社PWC
		深沢内科クリニック
		一般財団法人北海道青少年科学文化財団
		みどり鍼灸治療院
		矢橋ホールディングス株式会社

この他、奨学金をはじめとしてAFSにご支援をくださっている個人の皆様、匿名でご寄付くださった企業・団体各位にも深くお礼申し上げます。

大使館などからも、AFS プログラムを応援するメッセージを多数いただいています。



応援メッセージ

朋優学院高等学校
品川女子学院高等部
國學院高等学校
東京都立青山高等学校
渋谷教育学園渋谷中学校
渋谷教育学園渋谷高等学校
実践女子学園高等学校
東京女子館中学校
東京女子館高等学校
青山学院高等部
関東国際高等学校
富士見丘高等学校
八雲学園高等学校
桜修館中等教育学校
東京都立国際高等学校
目黒日本大学高等学校
多摩大学目黒高等学校
目黒学院高等学校
筑波大学附属駒場高等学校
駒場東邦高等学校
東京学芸大学附属高等学校
世田谷学園高等学校
世田谷区立深沢中学校
昭和女子大学附属昭和高等学校
東京農業大学第一高等学校
恵泉女子学園中・高等学校
鷗友学園女子中学校
鷗友学園女子高等学校
佼成学園女子中学校
目黒星美学園高等学校
成城学園高等学校
東京都立大学付属中学校 高等学校
東京都立大学等々力高等学校
田園調布雙葉高等学校
三田国際学園中学校 高等学校
田園調布学園高等部
駒澤大学高等学校
新宿区立落合中学校
早稲田高等学校
学習院女子中・高等科
大妻中野高等学校
明治大学付属中野高等学校
東京都立富士高等学校
日壇女子学院高等科
文化学園大学杉並中学 高等学校
東京都立杉並高等学校
東京都立豊多摩高等学校
女子美術大学付属高等学校
日本大学第二高等学校
中央大学杉並高等学校
日本大学鶴ヶ丘高等学校
東京都立杉並総合高等学校
東京都立西高等学校
國學院大學久我山高等学校
保養高等学校
海城高等学校
淑徳巣鴨高等学校
東京都立文京高等学校
本郷高等学校
巣鴨高等学校
巣鴨中学校
立教池袋中学校
立教池袋高等学校
学習院高等科
東京都立早稲田高等学校
東京都立北園高等学校
富士見中学校
富士見高等学校
早稲田大学高等学院
東京学芸大学附属国際中等教育学校
吉祥女子中・高等学校
東京都立武蔵高等学校
聖徳学園高等学校
成蹊高等学校
法政大学高等学校
明星学園高等学校
明治大学付属明治高等学校
桐朋女子高等学校
晃華学園中学校
晃華学園高等学校
明星中学高等学校
東京電機大学高等学校
東京都立小金井北高等学校
国際基督教大学高等学校
中央大学附属高等学校
東京都立国分寺高等学校
早稲田実業学校高等部
東京都立国立高等学校
桐朋高等学校
東京都立小平高等学校
明法高等学校
東京都立川国際中等教育学校
東京都立立川高等学校

東京都立日野高等学校
東京都立松が谷高等学校
帝京大学中・高等学校
八王子学園 八王子中学高等学校
頼明館中学高等学校
東京工業高等専門学校
桜美林高等学校
玉川学園高等部
啓明学園高等学校
武蔵野大学高等学校
自由学園中等科
【神奈川県】
川崎市立橘高等学校
法政大学第二高等学校
洗足学園高等学校
神奈川県立多摩高等学校
日本女子大学附属高等学校
桐光学園高等学校
神奈川県立横浜沼沼高等学校
神奈川県立神奈川総合高等学校
東京学芸大学附属高等学校
捜真女学校高等学部
慶應義塾高等学校
日本大学高等学校
神奈川県立荏田高等学校
サレジオ学院中学校 高等学校
中央大学附属横浜中 高等学校
神奈川県立市ヶ尾高等学校
桐蔭学園高等学校
神奈川県立白山高等学校
神奈川大学附属高等学校
森村学園高等部
荏田高等学校
京コゼフ学園高等学校
法政大学国際高等学校
横浜市立みなと総合高等学校
神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校
横浜雙葉高等学校
横浜女子学院高等学校
聖光学院高等学校
関東学院高等学校
横浜市立横浜商業高等学校
神奈川県立横浜国際高等学校
横浜市立南高等学校附属中学校
横浜市立南高等学校
横浜市立丸山台中学校
神奈川県立金沢総合高等学校
神奈川県立追浜高等学校
横浜須賀学院高等学校
横浜市立桜丘高等学校
横浜商科大学高等学校
神奈川県立希望ヶ丘高等学校
横浜富士見丘学園中等教育学校
神奈川県立大和高等学校
神奈川県立大和西高等学校
神奈川県立厚木高等学校
公文国際学園高等部
神奈川県立舞岡高等学校
神奈川県立比叡高等学校
山手学院高等学校
神奈川県立横浜栄高等学校
神奈川県立大船高等学校
栄光学園高等学校
清泉学院中学校
清泉女子学院高等学校
鎌倉女子学院高等学校
神奈川県立七里浜高等学校
神奈川県立鎌倉高等学校
逗子開成高等学校
神奈川県立湘南高等学校
湘南白百合学園高等学校
湘南学園高等学校
神奈川県立座間総合高等学校
神奈川県立相模原弥高高等学校
神奈川県立相模原高等学校
神奈川県立相模原中等教育学校
相模原市立大野台中学校
相模原市立大学高等部
慶應義塾湘南藤沢高等部
三塚川県立鶴嶺高等学校
平塚中等教育学校
神奈川県立伊志田高等学校

新潟県立新潟中央高等学校
新潟県立新潟高等学校
新潟県立新潟商業高等学校
新潟第一高等学校
新潟県立佐渡高等学校
新発田中央高等学校
新潟県立新発田高等学校
新潟県立燕中等教育学校
開志国際高等学校
【富山県】
富山県立呉羽高等学校
富山国際大学付属高等学校
富山高等専門学校 (射水キャンパス)
【石川県】
星稜高等学校
金沢学院高等学校
石川県立金沢二水高等学校
石川県立金沢錦丘高等学校
石川県立金沢泉丘高等学校
小松市立高等学校
石川県立小松高等学校
【福井県】
福井県立藤島高等学校
北陸高等学校
福井工業大学附属福井高等学校
福井県立三国高等学校
福井県立武生東高等学校
【山梨県】
駿台甲府高等学校
山梨県立富士河口湖高等学校
富士学苑高等学校
甲陵高等学校
山梨県立北杜高等学校
【長野県】
長野県長野高等学校
長野工業高等専門学校
長野県諏訪高等学校
佐久長聖高等学校
上田高等学校
長野県上田高等学校
長野県屋代高等学校
長野県篠ノ井高等学校
松本秀峰中等教育学校
長野県松本深志高等学校
長野県諏訪清陵高等学校
長野県諏訪二葉高等学校
長野県飯田高等学校
飯田女子高等学校
長野県飯田風越高等学校
長野県伊那北高等学校
【岐阜県】
岐阜県立加納高等学校
学法) 岐阜清美学院 済美高等学校
岐阜県立岐阜高等学校
岐阜県立岐阜高等学校
岐阜県立岐阜高等学校
岐阜県立岐阜農林高等学校
岐阜工業高等専門学校
聖マリア女子学院高等学校
岐阜県立関高等学校
岐阜県立長良高等学校
岐阜県立岐阜北高等学校
岐阜県立大垣北高等学校
岐阜県立大垣東高等学校
岐阜県立各務原高等学校
美濃加茂高等学校
高山西高等学校
岐阜県立斐太高等学校
岐阜県立多治見北高等学校
【静岡県】
加藤学園暁秀高等学校
静岡県立沼津西高等学校
不二聖心女子学院高等学校
沼津工業高等専門学校
静岡県立静岡高等学校
静岡県立静岡高等学校
静岡県立清水東高等学校
静岡県立清水南高等学校
静岡県立藤枝西高等学校
静岡県立島田工業高等学校
静岡県立川根高等学校
静岡県立浜松西高等学校
【愛知県】
愛知県立豊橋東高等学校
愛知県立御津高等学校
愛知県立時習館高等学校
学校法人海陽学園 海陽中等教育学校
愛知県立岡崎北高等学校
光ヶ丘女子高等学校
岡崎市立福岡中学校
愛知県立岡崎西高等学校

愛知県立西尾高等学校
愛知県立刈谷北高等学校
愛知県立名古屋西高等学校
愛知県立新川高等学校
名城大学附属高等学校
愛知県立中村高等学校
愛知県立松陵高等学校
愛知県立明和高等学校
金城学院高等学校
愛知県立旭丘高等学校
名古屋高等学校
名古屋市立菊里高等学校
相山女子学院高等学校
愛知学院 愛知高等学校
名古屋大学教育学部附属高等学校
愛知淑徳高等学校
名古屋市立名東高等学校
愛知県立千種高等学校
南山高等学校女子部
南山高等学校男子部
愛知県立瑞陵高等学校
中部大学第一高等学校
愛知県立日進西高等学校
愛知県立豊田高等学校
愛知県立豊島高等学校
愛知県立東海南高等学校
愛知県立横須賀高等学校
愛知県立長久手高等学校
愛知県立西春高等学校
滝高等学校
愛知県立春日井高等学校
中部大学春日丘高等学校
瀬戸市立水無瀬中学校
愛知啓成高等学校
愛知県立木曾川高等学校
愛知県立津島高等学校
【三重県】
鈴鹿工業高等専門学校
【滋賀県】
比叡山高等学校
滋賀県立膳所高等学校
滋賀県立東大津高等学校
滋賀県立国際情報高等学校
【京都府】
京都産業大学附属高等学校
同志社女子高等学校
京都市立紫野高等学校
京都府立山城高等学校
京都市立西京高等学校
大谷中学高等学校
京都府立洛北高等学校
同志社高等学校
立命館宇治高等学校
立命館高等学校
福知山成美高等学校
舞鶴工業高等専門学校
【大阪府】
大阪府立北野高等学校
常翔学園高等学校
明星高等学校
四天王寺高等学校
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎
大阪夕陽丘学園高等学校
大阪市立工業高等学校
大阪府立天王寺高等学校
大阪府立住吉高等学校
大阪府立今宮高等学校
帝塚山学院高等学校
大阪市立水都国際高等学校
梅花高等学校
箕面自由学園高等学校
大阪府立千里国際高等学校
大阪教育大学附属高等学校池田校舎
大阪府立豊中高等学校 能勢分校
大阪府立千里高等学校
追手門学院高等学校
早稲田摂陵高等学校
大阪府立高槻北高等学校
高槻高等学校
大阪国際大和田高等学校
同志社香里高等学校
大阪府立花園高等学校
大阪府立藤井寺高等学校
大阪府立長野高等学校
清教学園高等学校
帝塚山学院泉ヶ丘高等学校
【兵庫県】
神戸市立葺合高等学校
兵庫県立伊川谷高等学校

兵庫県立兵庫高等学校
神戸国際高等学校
啓明学院高等学校
神戸海星女子学院高等学校
兵庫県立東灘高等学校
神戸市立六甲アイランド高等学校
神戸大学附属中等教育学校
兵庫県立芦屋国際中等教育学校
兵庫県立芦屋高等学校
甲南高等学校
関西学院高等部
神戸女学院高等学校
西宮市立西宮東高等学校
小林聖心女子学院高等学校
雲雀丘学園高等学校
兵庫県立宝塚北高等学校
兵庫県立有馬高等学校
三田学園高等学校
賢明女子学院高等学校
兵庫県立社高等学校
福岡県立福岡中央高等学校
【奈良県】
奈良市立一条高等学校
奈良県立奈良高等学校
奈良県立国際高等学校
帝塚山高等学校
育英西高等学校
東大寺学園高等学校
奈良県立叡信高等学校
奈良県立高取国際高等学校
奈良県立法隆寺国際高等学校
奈良県立郡山高等学校
【和歌山県】
和歌山信愛高等学校
和歌山県立海南高等学校
【鳥取県】
鳥取県立鳥取西高等学校
青翔開智高等学校
鳥取県立倉吉東高等学校
鳥取県立米子高等学校
鳥取県立米子南高等学校
鳥取県立米子東高等学校
米子北高等学校
米子北斗高等学校
鳥取県立米子西高等学校
鳥取県立青谷高等学校
鳥取県立鳥取中央育英高等学校
【島根県】
島根県立隠岐島前高等学校
開星中学校
開星高等学校
島根県立松江東高等学校
島根県立飯南高等学校
島根県立益田高等学校
島根県立吉賀高等学校
島根県立津和野高等学校
【岡山県】
清心女子高等学校
岡山県立岡山朝日高等学校
岡山県立岡山操山高等学校
津山工業高等専門学校
岡山白陵高等学校
岡山県立玉島高等学校
金光学園高等学校
【広島県】
広島大学附属福山高等学校
広島県立尾道商業高等学校
広島県立尾道東高等学校
尾道中学校
尾道高等学校
広島県立三原高等学校
広島県立広島葦智学園中学校
広島県立三次中学校
広島県立忠海高等学校
安田女子中学高等学校
広島女子学院高等学校
修道高等学校
広島県立紙園北高等学校
広島県立安古市高等学校
広島なぎさ高等学校
ノートルダム清心高等学校
広島大学附属中学校
広島大学附属高等学校
広島県立安芸府中等学校
広島国際学院高等学校
呉高等学校
呉工業高等専門学校
広島県立賀茂高等学校
近畿大学附属広島高等学校東広島校
武田高等学校
【山口県】
神戸市立葺合高等学校
山口県立華陵高等学校

山口県桜ヶ丘高等学校
サレジオ高等学校
山口県立萩高等学校
【香川県】
香川県立東松工芸高等学校
香川誠陵高等学校
香川県立丸亀高等学校
【愛媛県】
愛媛県立松山東高等学校
愛光高等学校
愛媛県立新居浜東高等学校
【高知県】
土佐豊高等学校
高知学芸高等学校
高知県立嶺北高等学校
【福岡県】
北九州工業高等専門学校
九州国際大学付属高等学校
福岡県立東筑高等学校
福岡県立北筑高等学校
第一学院高等学校
福岡雙葉中学校
福岡雙葉高等学校
福岡高専高等学校
福岡大学附属大濑高等学校
福岡女学院高等学校
福岡県立柏陵高等学校
福岡県立福岡高等学校
福岡第一高等学校
福岡県立筑紫丘高等学校
筑陽学園高等学校
糸島市立前原中学校
福岡県立明善高等学校
八女学院高等学校
福岡県立輝翔館中等教育学校
福岡県立山門高等学校
大牟田高等学校
福岡県立浮羽実真館高等学校
久留米信愛高等学校
【佐賀県】
佐賀県立佐賀西高等学校
佐賀県立神埼清明高等学校
佐賀県立佐賀雄高等学校
早稲田佐賀高等学校
佐賀県立致遠館高等学校
【長崎県】
こころ未来高等学校
長崎県立長崎西高等学校
長崎南山高等学校
長崎県立諫早高等学校
長崎県立大村高等学校
聖和女子学院高等学校
佐世保工業高等専門学校
【熊本県】
熊本県立熊本北高等学校
熊本県立熊本高等学校
真和高等学校
熊本県立八代高等学校
【大分県】
大分県立大分豊府中学校
大分県立大分豊府高等学校
岩田高等学校
大分県立大分舞鶴高等学校
大分県立大分西高等学校
大分県立佐伯鶴城高等学校
【宮崎県】
宮崎県立宮崎商業高等学校
日章学園高等学校
宮崎第一高等学校
日南学園高等学校
【鹿児島県】
屋久島おおぞら高等学校
鹿児島県立楠倉高等学校
【沖縄県】
沖縄県立小禄高等学校
沖縄県立開邦高等学校
昭和薬科大学附属高等学校
沖縄尚学高等学校
沖縄県立球陽高等学校
沖縄県立読谷高等学校
沖縄県立八重山高等学校

AFSの理念

AFSの目的

AFSは国際的なボランティア団体であり、営利を目的としない民間の組織である。より公正で平和な世界の実現に必要な知識、能力、理解力を多くの人びとが身につけるため、さまざまな異文化と接する機会を提供することを目的とする。

AFS Statement of Purpose

AFS is an international, voluntary, non-governmental, non-profit organization that provides intercultural learning opportunities to help people develop the knowledge, skills and understanding needed to create a more just and peaceful world.

AFSの基本的価値観と立場

多様性に満ちた世界において、平和と相互理解の推進のため行動する、責任ある地球市民を育てようとAFSは考える。平和は常に、不正、不公正、偏狭な心によって脅かされる危ういものだと認めるからである。

AFSはすべての個人すべての国と文化に、それぞれの尊厳と価値があると確信し、その考えが広く確立されるよう努力する。そして、人種、性、言語、宗教、社会的地位の違いとは無関係に、人権と基本的自由が尊重されるよう、その実践を推進する。

AFS活動は人間の尊厳、違いの尊重、調和、感受性、寛容の精神という基本的価値観に基づいて行われる。

-1993年開催 AFS世界会議で採択

The Core Values and Attributes of AFS

AFS enables people to act as responsible global citizens working for peace and understanding in a diverse world. It acknowledges that peace is a dynamic concept threatened by injustice, inequity and intolerance.

AFS seeks to affirm faith in the dignity and worth of every human being and of all nations and cultures. It encourages respect for human rights and fundamental freedoms without distinction as to race, sex, language, religion or social status.

AFS activities are based on our core values of dignity, respect for differences, harmony, sensitivity and tolerance.

-Adopted at the 1993 World Congress

わたしたちの活動は、生徒を受け入れ異文化との共生を実践しているファミリーやそれをサポートする多くのボランティア、また、プログラム参加生を含めAFSの理念に共感してくださっている個人や法人・団体からのご寄付（One AFS会費）によって支えられています。

年間派遣プログラムに参加される皆さんもぜひ、ボランティア活動や寄付を通じて、公正で平和な世界の実現に、継続的に関わってくださることを願っています。

よくあるご質問はこちらをご覧ください





AFS年間派遣プログラム 2023年派遣「プログラム案内」

発行年月日 2022年3月1日
発行／公益財団法人AFS日本協会
〈UNESCOオフィシャルパートナー〉

AFSでは年間派遣プログラム以外にも、オンラインプログラムの参加者や
来日留学生のホストファミリーを募集しています。
ご興味のある方は当協会までご連絡ください。

www.afs.or.jp



WEBサイト、各SNSのリンク一覧